Doctor Column 4
歯科

歯医者の麻酔で気分が悪くなる？

－歯科用局所麻酔アレルギーの本当の話－

シュンデンタルクリニック
鎌田　俊
院長

［略歴］

平成16年、岩手医科大学を卒業。平成18年、同大学口腔顎顔面再建学講座入局。平成19年、同大学大学院に入学し、平成23年に卒業。道内外の歯科勤務を経て平成28年、シュンデンタルクリニック開院。日本歯科麻酔学会認定医。岩手医科大学非常勤講師。日本顕微鏡歯科学会、SJCD（Society of Japan Clinical Dentistry）理事。歯学博士。

最近、歯科医院で虫歯を治療した2歳の女の子が低酸素脳症に陥り死亡するという痛ましい事故がありました。報道の中に「局所麻酔を使用した虫歯治療後、唇が紫色になり目の焦点が合わなくなった」と記載がありました。はたして局所麻酔とこの事故に因果関係はあるのでしょうか？

歯科用局所麻酔薬によるアレルギー（アナフィラキシーショック）は致死的合併症ですが発生頻度は極めて低い（1／150万の確率）と言われています。しかしながら歯科治療中、特に麻酔後、「気分が悪く動悸がして、しばらく安静にしたら回復し普段通り歯の治療を受けることができた」という方は大勢いらっしゃいます。この現象は麻酔のアレルギーでしょうか？答えは「NO」です。

原因として、一つは局所麻酔薬に配合されるアドレナリンの副作用によるものです。アドレナリンは麻酔薬よりも比較的早期に代謝され時間とともに落ち着きます（健常な方の場合）。もう一つは、不安感、緊張から生まれた自律神経のバランスが崩れる「血管迷走神経反射」です（1／150の確率）（交感神経－副交感神経を自律神経と言います）。このメカニズムは不安、緊張が交感神経を刺激し脈は速くなり血圧が上昇する一方、交感神経の興奮に対し抵抗する副交感神経（脈、血圧を下げる働き）が関与します。車の運転で例えると、アクセルが交感神経、ブレーキが副交感神経です。緊張が強くアクセルである交感神経の活動が高まると、それを制御しようと急ブレーキを踏んで（副交感神経が亢進（こうしん）して）ガクンッとなる。急な血圧低下で脳への血流が少なくなり気分不良、意識喪失になってしまうことを言います。この場合、特に処置は必要なく経過観察することで良くなることが多いです。

歯科治療の際に気分が悪くなったことがある方全ての皆様がアレルギーとは限りません。正しい治療には適切な局所麻酔は必須です。ご不明な点がありましたら、かかりつけ歯科医院とご相談なさって頂ければと思います。

シュンデンタルクリニック
函館市石川町461-38　☎0138-47-3737
http://shundc.jp
■診療科目／歯科、歯科口腔外科、小児歯科、矯正歯科
■診療時間／9:00～18:00　※水・土曜は14:00まで
■休診日／日曜・祝日